



エコ・ファーストの約束（更新書）

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

環境大臣 山口 壯 殿

令和3年11月1日

株式会社ブリヂストン
取締役 代表執行役 Global CEO

石橋 秀一

ブリヂストングループは、「未来のすべての子どもたちが『安心』して暮らしていくために…」という思いを込めた「環境宣言」に基づき、持続可能な社会の実現に向けて地球環境の保全及び、多様な生活者一人ひとりの安全と健康に配慮した企業活動を推進します。

1 自然共生社会の実現に向けて、環境インパクト改善を推進します。

- ブリヂストングループは、2050年以降を見据えた環境長期目標において、生物多様性ノーネットロス^{※1}を設定しています。目標の実現に向けたマイルストーンとして、2030年までに水ストレス地域における生産拠点において、水リスク低減に向けたウォーターシュワードシッププラン^{※2}を推進します。

※1 ノーネットロスとは、事業活動が与える生物多様性への影響を最小化しながら、生物多様性の復元などの貢献活動を行うことによって、生態系全体での損失を相殺するという考え方です。

※2 公平かつ持続可能な水利用に向けたブリヂストングループの考え方

- 地域の文化とそこにある生態系、種、遺伝子の多様性を理解し、この双方に配慮するとともに、グローバルに広がるネットワークを活かし、森林保全、野生生物の生息地保全など、生物多様性保全活動を継続的に世界中に広げていくことに努めます。
- 自社のみならず、グローバルサステナブル調達ポリシーを通じ、生物多様性の保全を含めた環境インパクトの改善にサプライチェーン全体で取り組んでいきます。
- 地域やパートナーの皆様と連携し、世界中の生産拠点で従業員とともに様々な生物多様性保全活動や環境教育活動を実施し、また、社内外に発信することで自然との共生、生物多様性の重要性を伝えていきます。

2 循環型社会の実現に向けて、サーキュラーエコノミーへの貢献を促進します。

- ブリヂストングループは、2050年以降を見据えた環境長期目標において100%サステナブルマテリアル化^{※3}を設定しています。目標の実現に向けたマイルストーンとして、2030年までに再生資源または再生可能資源に由来する原材料の比率を40%^{※4}に向上します。

※3 当社グループでは、「継続的に利用可能な資源から得られ、事業として長期的に成立し、原材料調達から廃棄に至るライフサイクル全体で環境・社会面への影響が小さい原材料」をサステナブルマテリアルと位置付けています。

※4 リトレッド用台タイヤを含むタイヤ事業での総原材料重量に占める比率

- 商品のライフサイクル全体において、長寿命/省資源設計を始めとした資源生産性の継続的向上を進めます。
- 使用済みタイヤの有効利用を始めとして、リペア/再利用、サービスとしての製品^{※5}の提供、リサイクル/アップサイクル、カスケードリサイクルなど様々なアプローチを通じ、プロダクトサーキュラリティ^{※6}の継続的向上を図ります。
- 一定の月額費用で性能保証されたタイヤを継続使用でき、かつタイヤが故障や摩耗で使えなくなった場合、追加費用なくタイヤを交換できるタイヤサブスクリプションモデルなどのサービス
- 使用済み製品の循環性を示す概念であり、ブリヂストングループでは、回収した使用済み製品が有効活用された割合を指標として用いています。
- 生産活動や全ての事業所での従業員一人ひとりによる廃棄物削減の取り組み、分別の徹底など、リデュース、リユース、リサイクルの3R活動を推進し、国内グループ全体でのゼロエミッション活動を維持継続します。

3 低炭素社会の実現に向けて、商品のライフサイクル、バリューチェーン全体を通じたCO₂削減を促進します。

- ブリヂストングループは、2050年以降を見据えた環境長期目標においてカーボンニュートラル化を目指します。目標の実現に向けたマイルストーンとして、2030年までに私たちが排出するCO₂の総量 (Scope 1, 2) を50%削減します。(2011年比、2025年までに36%削減に相当)
- 2030年までにソリューションの提供により、商品・サービスのライフサイクル、バリューチェーン全体 (Scope 3) を通じて、私たちの生産活動により排出するCO₂排出量 (Scope 1, 2) の5倍以上のCO₂削減に貢献していきます。(2020年比)
- グローバルでエコドライブの訴求を含めた交通安全啓発活動を推進し、低炭素で安全なモビリティ社会の形成に貢献します。

ブリヂストングループは上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。